

# 平成13年第3回教育委員会臨時会記録

平成13年7月24日(火)

杉並区教育委員会

## 教育委員会臨時会記録

日時 平成13年7月24日(火)午後3時04分～午後5時00分  
場所 教育委員会室

出席委員 委員長 丸田 頼一 委員長 宮坂 公夫  
職務代理者 委員 大藏 碓之助 委員 安本 ゆみ  
教育長 與川 幸男

欠席委員 (なし)

出席説明員 事務局次長 松本 義勝 庶務課長 佐藤 博継  
学校運営課長 佐野 宗昭 学務課長 森 仁司  
施設課長 小林 陽一 指導室長 工藤 豊太  
社会教育  
スポーツ課長 荒井 健一 中央図書館長 古川 正司  
社会教育  
センター所長 伊藤 俊雄 中央図書館  
次長 杉田 治幸  
事務局職員 庶務課係長 小今井 七洋 法規主査 能任 敏幸  
担当書記 手島 広士

傍聴者数 20名

### 会議に付した事件

#### 1 教科用図書の採択について

**委員長** 本日はマスコミ各社などからカメラ撮影の申請が出ていますが、会議の頭撮りだけに限らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。録音につきましては不許可とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。委員の皆さんよろしいですね。

ただいまより平成 13 年杉並区教育委員会第 3 回臨時会を行います。本日の議事録の署名委員は宮坂職務代理者をお願いいたします、よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして傍聴の皆様方に申し上げます。会議における言論につきまして、批評を加えたり、賛否を表明したり、私語・雑談などをなさらないようよろしくお願いいたします。

本日は小学校教科用図書および養護学校、心身障害学級用教科書の採択について審議いたします。審議の方法ですが、教科ごとに審議を行いまして、議論が出尽くした段階で順次次の教科に進めさせていただくことにいたします。小学校につきましては、教科ごとの全ての審議が終了した段階で、採択本を確認するために休憩を挟み、採択の議決を行います。よろしいでしょうか。また、審議に当たりましては出版社名を明らかにし発言していただきますようお願い申し上げます。

小学校の国語から始めます。どなたかご意見をよろしくお願いいたします。

**大蔵委員** 私はずっと教科書なんて読んだことはありませんでしたので、今回非常に精密に読みました。ただ、その中で理科、家庭だとかになりますと、読んでも比較は難しいのですが、読んで分かる国語とか社会については非常に丁寧に読んだつもりでいます。小学校の国語の教科書についても量としてはたいしてありませんので、よく読んだと思いますので、一通り順番に意見を言わせてください。

順番にいきますとリストがありますが、日本書籍から始まっていますので日本書籍から申し上げます。小学校の教科書全体通じて、低学年はあまり差がないと思います。学習指導要領の通りに書いてあるのだと思いますが、あまり違いがありません。ただ、挿し絵だとか写真だとかについては顕著に違います。しかし、それはどのぐらい教科書としてどちらがいいと言えるかというのは、なかなか難しいところではないでしょうか。

日本書籍ですが、これは定番の「かさこ地蔵」とか「ごんぎつね」とかは大体どれにも入っています。審議会から上がってきたところによりますと、割合、話題は偏っているということでしたが、私は特にそれはあまり感じませんでした。まあまあバランスがとれているのではないかと印象をもっています。

東京書籍も同じように定番の「かさこ地蔵」や「ごんぎつね」が入っているようです。話の内

容としては、そんなに変わったところはありません。ただ、後ろのほうに漢字の表だとかいうものの資料の整理が非常によく出来ている。ほかの本よりも使いやすいのではないかという印象を持ちました。

大阪書籍もやはり「かさこ地蔵」とか「ごんぎつね」はみんな入っているのですが、国語だけではなくて、国語から外に広げたい。つまり、情報教育、コンピューターだとか、そういうものを国語の教科書を通じて教えたいという意図があるように思います。しかし、そのために何か割られる部分がありまして、まとまりが少し悪くなっているというようなところが感じられます。もう1つは、ここは目次の所がちょっと変わってしまっていて折り込みになっているのです。目次の裏側にその教科のまとめみたいなものを書いてあるのですが、これがあまり生きていないのではないか、使いにくいように思います。そんなことをやらないで普通の目次にしたほうがいいのではないのでしょうか。

その次、学校図書ですが、学校図書は漫画家の作品なども入ってしまっていて、全体に漫画であるとか、イラストなどが強調されています。漢字についても「漢字クイズ」という形で漫画的に処理をしているのですが、その辺りをどう取るかということがあるでしょう。出ている作品は「かさこ地蔵」とか、「ごんぎつね」で全く同じです。

次は教育出版です。教育出版は目次の作り方からして少し違います。ほかの版は1年生から4年生までが大きい版になってB5になっています。5年、6年が小さくなっているのですが、ここは4年生から版が小さくなっていて、いろいろな所で全体に違います。作品も取り上げ方もほかとは少し変わっています。どういう点でそういうふうになっているかは分かりませんが、作品は「かさこ地蔵」は出ていましたが、それ以外出ていないのです。何か非常に淡白な作りになっている感じです。面白い読みものが非常に少ないようなものです。

光村図書、これも少し変わっているのですが、目次の前に短い節をまず置きまして、それから目次を書いて進めていく。それからこれは明らかに分量が多いのです。ほかのどの教科書よりも厚いです。ということは、長い作品を取り入れることができたということだろうと思います。それだけに割合面白い素材だと。これは教育図書と同じように、共通話題が割合少ない。ここは「ごんぎつね」が入っていて「かさこ地蔵」がないのですが、共通素材がほかの教科書と比べると違います。

ほかは教育出版を除きまして日本書籍、東京書籍、大阪書籍、学校図書は同じような教材がたくさん入っているのですが、教育出版と光村があまり共通のものがない。しかし、教育は短いものであまりはっきりしたのがないのですが、光村は非常に精選されているという点では、私は割合に良いのではないかという気がしました。この教科書を現行教科書で使っているそうですが、

それに値するという印象を受けています。ざっと言えばそういうところです。

**宮坂職務代理者** 私も国語・社会については一通り目を通しました。ここで一つひとつ細かく説明するのは時間の関係もありますので省略しますが、いちばん最初の日本書籍については確かによくまとまってはいると思います。中に少し気になるのは平和教育に対する規定があります。これはあくまでも国語の教科書ですから、あまりにそういったものが入るのはどうか。いろいろなジャンルを入れたほうがいいのか、というのが私の考えです。

あと、いろいろありますが、いまの段階では光村図書は内容が少し多いという批判もあるのですが、現在使われていますし、使いやすいという先生方の意向を考えますと、いまのところはいちばん良いのではないかと一応は考えています。確かに小学校の教科書ですから、細かい点につきましては大蔵先生が言われたとおりなのですが、大同小異という感じがいたします。

**安本委員** 私は光村に関しては、ずっと子供が杉並の学校に行っていましたので、ずっと見ていました。この教科書は表紙も物語調になっていまして、とても親しめる教科書であるというのはよく存じています。1つ学校図書の中に点字が載っているのです。光村が手話を載せているのですが、学校図書のほうは本物の点字を載せてあるので、そういうものにあまり接する機会が子供たちはないので、こちらのほうもなかなか良いのではないかなと思いました。すぎっ子の作品、詩集ですが、それも巻末のほうにいくつか載っていますので、杉並で使うにはなかなか親しみやすいのではないかなと思いました。

**教育長** 一通り出たような気もします。日本書籍も私はなかなかいいなと思いましたが、ちょっと文字数が多いといえますか、何か詰め込み過ぎではないかなという。内容もちょっと難しいのかな。これは選定審議会の報告の中にもありますが、ちょっと難しい所もあるなという印象が日本書籍はあります。全体的にトーンとしては必ずしも明るいトーンではないのかなというイメージです。

東京書籍は挿し絵だとか、ビジュアルに見せようという工夫は分かるのですが、何かもう1つ、子供の心を膨らませるような表現ではないのではないかな。全体的にまとまりのいい教科書だなど思いながらも、もう1つ子供の想像力をかき立てるような部分でどうなのかなという気がしています。

大阪書籍については、結構面白い工夫がしてあります。インタビューだとか、論説文とか、いろいろバラエティーに富んでいるのですが、もう1つ何か、ちぐはぐだなという気がいたしています。大阪書籍という書籍会社の名前のおり、大阪に素材がやや傾いているのかなということ。ただ、そうはいいながらも、杉並の知る区ロードを扱ってくれたりしていて、ちょっと嬉しいなという感じがしました。それは嬉しかったのですが、全体的には大阪、関西にやや偏った部

分もあるのかなという印象もあります。

学校図書については、何か懐しい教科書に出会ったという印象を私は受けました。そういう意味ではじっくりするのですが、ちょっと説明が多い、昔タイプの教科書なのかな。現代っ子にどうなのかなという、別に現代っ子に媚びることはないのですが、タイプとしてはちょっと古いタイプなのかなという印象も若干あります。

教育出版ですが、これは審議会の報告の中にもありますが、言葉を大変大事にしているという点では、私も優れた教科書の1つだと思っています。ただ、先ほども、どなたかからお話が出ていましたが、もう1つ何か印象に残ったものがあると言われると、やや躊躇するものがあるのかなと。良く出来てはいますが、何かコマ切れのようなイメージがあります。

光村図書につきましては、導入も小学校1年生ぐらいは別にというのですが、1年生の教科書の部分でも、大変素直な導入部分になっています。それぞれ昔と違ってハト・マメなんとかというのと違うのですが、「さいたさいたさくらがさいた」ではないのですが、教科書全部出だしはみんな違うのですが、光村図書の「うさぎちゃんがあそびにきてね、おはよう」ってというのは次のページに出てくるのですが、あの導入がなんともいえず私には心温まるような気がしましたし、ほかの委員もおっしゃっていましたが、教材文もなかなか吟味されているし、書体も読みやすいし、現在使われている。これは杉並区でも10年ほど使っているのですか、そういう実績もある教科書ということもあるのかもしれませんが、なかなか良くまとまっている。私は優れた教科書ではないかなと思いました。

ただ、ちょっと分量が多いのかなというのが気になりました。14年度からは教科時間の3割カットがありますので、そういう中でちょっと重いのかなという気もしないでもないのですが、一方で基礎・基本を大事にしようということも言われていますので、杉並の子供たちのレベルから言えば、分量が多いといっても倍多いとかいうわけではありませんから、この程度であればむしろ。先ほど大蔵委員がいいことを言われましたが、多少長文のものも載っているという意味合いでは、良い文章をよく吟味できるという長所もありますので、分量の多い部分は先生のご指導のご努力も含めて教科書はまさに、教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるわけでしょうか、杉並の先生方の力量からすれば、光村図書は十分こなせるのではないかと、そんな気がいたしました。以上です。

**委員長** 一通りご意見をいただきました。3番目の大阪書籍については内容的にも大阪の内容が多いというような側面、したがって特に理科だとか社会には影響しますが、地域性というものをどういうふうに教科の中に取り入れていくのか。その辺教師が身近なことを考えるというのが言われているわけですが、そういった視点で教える側に立った場合、難しいかなと思います。日本書

籍についてはご意見がありましたように、より幅広い内容で教えていただきたいという側面から物足りなさがあるということだと思います。あと、光村という話もありますが、加えてご意見がありましたらお願いいたします。

**大蔵委員** 安本委員から学校図書の点字の話が出ましたが、それは確かにそうなのです。これは私が言いましたとおり、クイズ的なものやら漫画的なものやらが割合に多いものですから、これを取り入れているのですが、しかし、点字自体ここでどうしても教えなければならないかという、それよりは国語が中心です。面白いですが、まだ点字は結構ですね、面倒くさいので、指で触ったりするほどにはなっておらず表になっているだけです。覚えるのも結構難しい、ただ、そういうものがあるということでは分かりますが、実際に習得するまでにはいかないのではないかと気がします。面白いことは面白い、ほかにはありませんからいろいろなことをやろうとする意欲は学校図書にはあります。

**安本委員** 教科書で学ぶというふうには先ほど教育長は言われたのですが、何が大事かということは想像力を広げて、何がその先にあるかと、例えば点字とはこういうものであると。ほとんどの人が、大人でも触ってみたこともないわけです。学校図書の点字の説明で別に点字を読もうというところではないのです。点字がどういうふうにして出来てきたかとか、日本人らしいのですが、誰が考えたか。そういうことから点字に興味を持たせる。それは国語だけではなくて、先々社会でも、理科でも、どんな科目でもそうだと思うのですが、想像力を持たせるようなものをという意味では、私は点字が初めて出てきたのは、学校図書はすごくいいなと思いました。

学校図書に関してはいろいろなジャンルが出ていなくて、割合細かく深くいってしまうところがあるので、できれば私は点字がすごくいいなと思ったのです。教科書自体も審議会の報告からは大変字もきついし、色も濃いというお話もいただきましたが、あのぐらいのインパクトはあっても私はいいのではないかと。どちらかというとならぬ光村のほうの方が線が弱いと、私はそのような感じがしました。ただ、光村はずうっと表紙も光村らしい表紙と言いますか、光村らしい本だったので。それが今年だと思うのですが光村らしくなくて、どれもみんな似ている教科書になって、学校図書もそうですし、日本書籍もそうです。どちらかというとならぬ漫画チックな方向というか、色も。私は何もそこまで子供に迎合することは、まあ、受けるのかもしれないけれども、もう少し柔らかい、せめて教科書ぐらいはと、ゲーム世代の子供たちにはそう思いました。

そういう点でいうと、日本書籍でも、東京書籍でも、大阪書籍もあまり変りはないし、学校図書に関しては私は割合まともにも良かったし良いなと思います。ですから学校図書が光村か。光村は捨てがたい、もう十何年お使いになっているから先生もお慣れになっていらっしゃる、いいのかななんて思ったりもしました。

**安本委員** 全体にビジュアル化が進んでいるといいですかね。

**大蔵委員** そういう点では非常に似ています。

**安本委員** 似ています。もっと違う教科書だと思っていたので、最初に光村を開けた時にはショックを受けました。

**教育長** そういう意味では学校図書は何かしっくりくるというか。

**大蔵委員** いやいや学校図書は強烈です。漫画とかね。

**安本委員** 強烈ですよ。だけどそれは光村が前はもっと柔かったのに、今度ああいうふうになってしまった。どちらかという学校図書に近いものになったという感じです。

**大蔵委員** この3つの中では学校図書がいちばん派手と言うか、強烈です。

**教育長** 写真などはそうですね。私はすぎっ子が載っていたもので少し気に入っているのです。

**安本委員** 少しではなくて、私それすごく気に入っているのです。

**宮坂職務代理者** 学校図書は言語の学習が乏しいという意見もありますし、確かに杉並のことは出ているのですが、学校図書、大阪書籍、大阪書籍は基本的に関西系の記事が多いのではないかと、他を見ましたらそのような感じがします。どうなのですか、バランスの問題なのですが、点字の件もバランスの問題なのですが、やはり現行では光村図書がいちばんなんとなくバランスがとれている。ただこの欠点は内容が少し多い。これは欠点になるのか逆に言えばいま「ゆとり教育」と言われている中で、そういったものに対して努力をすることが必要ということで、内容をあえて多くするということがあるいは長所とも考えられるのです。その意味で私は光村がいいように思いますが、以上で、ほかの先生方のご意見を伺いたいと思います。

**大蔵委員** 点字に対抗するものとして、先ほどおっしゃっていましたが光村には手話があります。

**教育長** そうですね。

**安本委員** 手話は杉並の小学校ではかなり歌に合わせてやったりとかしています。

**大蔵委員** 音楽の時間でもやっていますね。

**安本委員** していますから、それは馴染みがあるのです。テレビなどでも下の方に出てきたりします。点字、それだけでということではないですが、全体的に教科書にバラツキがなくなったなど。私は光村でショックを受けたのでそういうふうにしたのです。内容的に多いということですが、それは別に選んで教えるということもなかには必要だと思いますし、それに関しては私はあまり心配はしていません。無理に全部少なくして楽な方向に行く必要は私はないと思うのです。

**教育長** 学校図書はどうも、好みかな。絵とかイラストと、写真とが、イメージがちょっと違うのです。子供に優しくないというかソフトでないというか、子供の想像力を膨らませるような絵ではないような、これは光村図書との比較ですが。



**大蔵委員** 子供にアピールしようというのは一生懸命にやっているのだと思います。だからそう言ったのだと思います。私は前の光村というのは知りませんので、新しく見た限りでいくと、この中では光村が上品といいますか。前からいうと強烈になったり、ほかに近付いたのかもしれませんが、しかし、その中ではまだ特色があるのではないのでしょうか。

**安本委員** ただ、光村は字が読みやすい。

**大蔵委員** とてもきれいですね。

**委員長** そうですね。それは言えます。

**安本委員** これはずっと変わらないのです。

**大蔵委員** だからこれが長い文章でも読みやすいということに繋がるのかもしれませんが。

**教育長** 確かに読みやすい。

**安本委員** かなりたくさんの所で使われているみたいですから、自信のある教科書なのでしょうけれども。

**大蔵委員** 素材を入れ換えているのだと思うのです。ほかと一致しないというのは、一生懸命選んで新しいものを取り入れようと、それだけの自信があるのでしょう。

**委員長** 環境問題とか福祉だとか、情報だとかいろいろ新しい材料を取り入れている。ほかよりそういう今日的な課題というか、最近の問題も含めて国語で教育するという特色が見られます。大体光村ということによろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 次は書写に入ります。よろしくご審議のほどをお願いいたします。

**安本委員** 書写ですが、学校図書には杉並の子供の作品がかなり出ているように思いました。丁寧に工夫された良い書写の本だと思ったのですが、それは私が先ほど学校図書の国語の教科書がいいと考えていましたので、書写は同じ会社のほうが字の出てくる順番とかいろいろでリンクするらしいと審議会の先生からも伺いました。そうなりますと、光村図書の書写の教科書が先生方もいちばん使いやすいのではないかと思います。なかなか細かい配慮がされている教科書だと伺いましたし、漢字の出てくる順番が同じで学びやすい、子供にとっても先生にとってもお互いうまくいくというのでしたら、光村がよろしいのではないかと思います。

**教育長** これについては国語の教科書の教育課程に沿って、書写もやはり流れていくものですから、選定審議会で同じものを使えとは言っていないですが、いままでの学校教育を進める上では、同じ会社のものを選ぶというのが先生の指導上もこれは妥当だと私も思います。この内容も選定審議会の報告書を見ても筆使いのポイントも書かれていて細やかな配慮があるとか、生活に生かす場面が季節ごとに例示されていて、適切な教科書であるということも言われていますので、できれ

ばこれは光村を使うのが望ましいのかなと、これは教える側の立場からいっても、そういうことが言えるのかなと、教わる側もちろん同じことですが、子供たちにとってもそのほうがスムーズに書写に入れるのではないかと思います。

**宮坂職務代理者** 私も安本委員、教育長のご意見に同意いたします。先生方の希望で国語と同じ教科書ということであれば、光村になってしまいます。確かに学校図書も内容的にはなかなか魅力はあるのですが、杉並の子供の作品が出ているということで捨てる感じがしますが、同じ会社という観点からいきますと現状では光村図書がよろしいのではないかと、そのような感じはいたします。

**大蔵委員** 私も特にこれは。

**委員長** はい、ありがとうございました。

**教育長** 私も個人的には書写にはいろいろと思い出がありまして、杉並の学校が写っていたり、杉並の先生が書いた書が載っている教科書もありますし、いろいろありますが、やはり教科書ですから一定のルールがあってもいいのかなという意味で、先ほど申し上げたとおりです。

**委員長** 内容的にも優れていますし、量的には多少多めの部分もあるようですが、審議会の報告などを読みますと、問題ないというふうに言っていますし、表現というか、図や写真などもきれいだということで推薦されていますし、国語と書写は同一物が良いというご意見を皆様方にいただきましたので、決めさせていただいてよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** ありがとうございました。次に社会に入らせていただきます、ご意見を願います。

**大蔵委員** 私は国語と社会がいちばん力を入れて読んだのですが、東京書籍は非常に手堅い。特にどこに問題があるかということがなかなか言えない。「ドラえもん」なども使っていて非常に上手に出来ているということです。これは指導要領との関係があるのですが、6年生の上で日本の歴史を扱いまして、6年生の下で世界に繋がっていくのですが、これ全部ではありませんが、たいていの本が6年生の下というのは非常に薄っぺらになっています、どうしてそういうふうになっているのかがよく分かりません。これは東京書籍も目立ってそのようになっています。

大阪書籍は、国語の時にも出ましたとおり、関西ベースで大阪の話題が多いということです。国語の場合、私はそんなに強く感じなかったのです。関西のものがあったら、昔話とかいろいろなものも、いろいろな所にありますから。しかし、社会のほうは明らかに関西重点だなど、東京の子供には少し親しみがなくなるかなという気がしました。

教育出版は歴史の分ですが、中学校の歴史などでもいろいろ問題になるところでしょうが、例えばアイヌの問題が江戸時代のところで突然出てきまして、「シャクシャインがアイヌ人を率い

て、反乱を起こした」と書いてあるのですが、それが非常に唐突なのです。書くのならばもっときちんと書かなければいけないのですが、そのようになっていない。それだけが急に突然出てきて、では日本の北海道アイヌはどうだったのかということについて何も無い。ほかの所の百姓一揆だとか反乱だとかそれもないのです。そういう点では、どうしてここにそんなものが、しかもきれいな色刷りの所に入っているのかは、私は流れが悪いなという印象を持ちました。

光村図書は国語と違って無色透明でどことなく、なんということもない。可もなく不可もない。東京書籍のほうはもう少しキャラクターを使ったりしているところで、特色がありますが、光村図書はそういうものもあまりない。きれいですが非常に特性がないという気がします。

日本文教出版は、全般的に非常に詰め込もうとしているのです。いろいろなことを教えようとしているようですが、それが成功していない。資料だとかそんなものの整理が悪いということで全体的に不均衡だという感じを持ちました。

**教育長** 私も東京書籍が比較的バランスが良い教科書かなと思いました。6年生の下が薄いというのは東京書籍ではなかったと思うので、全てにわたってそういう教育過程だと言えばそういうことだと思います。ただ、6年生の下で東京書籍は子供議会を冒頭に持ってきたりして、地方自治と子供たちを身近なものにする。杉並でも子供区議会をやっていますし、身近なものにさせるという工夫はあって、しかも、「ドラえもん」「のび太君」は、たしか杉並区民である大山のぶ代さんにご縁のあるキャラクターですので、親しみを大変覚えております。しっかりした内容構成にもなっているのかなという気がして、まとまりも大変良い教科書だと私は思います。

大阪書籍はデータ、素材がやはり西日本系かなという気がします。

教育出版は多摩川だとか、たしか三鷹の大沢のわさび田の辺りだったか、私の懐しい風景が出てきて、教育出版は大変身近な印象を受けました。6年生部分では「戦争中の暮らし」ということで折り込み式というのですか。折り込み式は教育出版は多かったか、使いやすさと使いにくさ、両方あるのではなからうかなという印象の両方を持ちながら、だけどうまいこと折り込みを全体的によく使っている。これもそういう意味ではよくまとまった、身近な教材も載っているという意味では、親しみの持てる教科書だと思いました。

光村図書は、例えばですが、戦前・戦後の、戦争というものに対する記述の部分を仮に見た時に、とにかくあっさりしているのですね。本当に凄い戦争があったのかなんていうのは、全くこの教科書に関しては、とても感じられません。サラリと流してわずかな部分。しかもそんなにページ数も多くないのです。逆に意外な感じがしたくらいで、そういう意味では内容的に、これをたまたま戦争中の出来事のことを例に挙げたのですが、何か薄味だなという印象を受けました。

日本文教出版については、全般的に読ませる工夫が少ない。これは審議会の報告書の中にもあ

りましたが、ちょっと知識偏重の傾向なのかなという印象で、もうひとつご努力が欲しい教科書なのではないかなと思いました。私はそのような印象です。

**宮坂職務代理者** 私も内容的には教育長が言われたとおりだと思います。審議会の報告などを見ますと、東京書籍と教育出版これが比較的、構成に優れている。バランス的にも。

私も見た感じではそのように思います。教育出版は大蔵先生が言われましたように内容の絵・写真・本文のバランス的にはよくとれています。どういう内容を書けるかというところに、ちょっとひっかかる所も私も正直あります。アイヌの問題とか、国旗・国歌の取り扱いとかいろいろ細かい所なのですが、気にすれば気になる。そういうのを含めると、東京書籍のほうがわりあい伸び伸びとしている。杉並区の小学校、杉6なのだそうですが、私の母校が載っているから東京書籍が良いというわけではありませんが、参考なのですが杉並区内の小学校が載っている。「ドラえもん」とか杉並区の、いま教育長からの話もありましたし、総合的に見ますと、やはり東京書籍が一番かなという感じがします。

**安本委員** 東京書籍の教科書は読んで分かりやすい。あまりしつこくあだこうだではなくて、わりあい子供にとっても取っつきやすいし、分かりやすい書き方をしているなというふうに思いました。審議会の先生からも伺っているのですが、特に「学び方コーナー」とかいうのがあって、子供がどういうふうに学んでいくかという意欲を持たせるという上では、とてもいいというふうに私も思いました。

教育出版に関しては、私はそんなに気になる箇所はなかったのです。三鷹とか、多摩川も出ていて、子供にとっても良かった。あと稲のバケツ栽培とかが出ていましたが、そういうことは学校でやっていますので、親しみやすいかなということはあると思います。

光村はそのとおりで、日本文教出版はシールとかいろいろ付いているのですが、これは一体何に使うつもりなのか、授業中に遊んで困るというような感じがいたしました。私も東京書籍はなかなか良い教科書だと思いました。

**大蔵委員** 東京書籍はこの次の項に地図がありますが、5冊の社会の教科書のなかに地図帳を出している会社は東京書籍だけなのです。地図帳自体は帝国書院がありますけれども。東京書籍はそのためかもしりませんが「地図の書き方」なんていうのが出てくるのです。これはほかにはないのです。たぶん自分の所で地図帳を出しているのと関係があるので強調しているのかもしれない。自分で自分の家の地図だとかをどう書いていくとか、面白いアイデアのところがありました。

**安本委員** 子供は北を上にして地図で書くというのは、なかなか勉強をしないと、地図帳は見てもそういう書き方の勉強ってしませんね。

**委員長** ありがとうございます。おおかた東京書籍というお話のようですが、内容的にも健康と

か、環境保全とか、その辺に焦点を当てて他書との比較になるような力点というものが出てきております。また生徒への問いだとか、考える道筋というものを考慮したという個性も出しているということだとすれば、良いものだと思います。それから学びやすいというご意見もありました。子供たちが自習したりする場合に学習問題がこれがいちばん多いのです。そういった比較をした場合に、東京書籍かなというふうに私も思います。東京書籍ということで決めさせていただいてよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 次に地図に入らせていただきます。お願いいたします。

**宮坂職務代理者** 地図は2社しかありませんので、どちらかということになるのですが、東京書籍もそれなりに社会では推奨しましたし、ただ、統計資料が少ないということが物足りない感じがします。そういう意味で現在帝国書院を使っています、こちらのほうが情報量も多くて内容的にもわりあいしっかりしているのではないかと。文字とかイラストなども見やすい、統計資料の項目が豊富である。そういう観点からやはり現行の帝国書院がベターだと私は思っておりますが、いかがでしょうか。

**大蔵委員** やはり帝国書院は地図では老舗だという印象です。

**教育長** やはり情報量も多いですね。地図の作り方というか、やはり伝統なのでしょうかね。

**大蔵委員** どこがいいかとなかなか言えないのですが、やはり良いという感じがありますね。

**教育長** しますね。考えてみたら地図に関してですが、私たちの子供のころからあったのではないかとこの気もしないでもないですね。

**安本委員** ずっと使っていますね、小学校も中学校も高校も、わりあいどこの学校でも、それは公立だけではなくて私学でも地図と言えば帝国書院。

**教育長** いわゆるそういう情報というか、その蓄積、ストックが帝国書院は地図情報に関しては多いのではないかなと、それが結果に出ているのではないかなという気がします。大変優れていると思います。

**宮坂職務代理者** 蓄積されたものがあるのでしょうかね。

**教育長** 選定審議会のほうからも帝国書院がよろしいと言っているようですね。

**委員長** 2冊しかありませんので比較がしやすく、結論めいたものもいただいておりますが、やはり表とかグラフだとかいった数も帝国書院の場合、東京書籍の3倍の量があるようです。ですから、ある程度のベースがあって、それを逐次更新しているといえればそれまでですが、ベースがしっかりしているということが根拠として上げられるのではないかなという点もあります。教師も総合的学習とか、いろいろなほかの学習の場面でも使うことができるという良さも多分に見られ

ますし、帝国書院でよろしいですね。

(異議なし)

**委員長** 次に算数です。よろしくお願いします。

**安本委員** 東京書籍の教科書、現行使われているようですが、身近な題材を使って、何々しようというふうに働きかけるような感じの文章で、問題提起もすごく分かりやすいし、実にきれいに作られて、よく研究された教科書だなという感じはするのですが、満遍なく全てを教えるという意味では東京書籍はすごくいいのではないかと思うのです。

例えば新しいことが右ページから始まるのです、すると、答えは後ろのページにいきますから、子供はめくって見るよりは考えると、答えがあるということを感じできないような工夫もされているし、教科書としては本当に私は東京書籍が、勉強を始めるのにこれだけ全部の科目を網羅した教科書を作っているというのを、実はよく分かっていなかったのです。教科書会社としてすごく良く出来て、良く研究しているのだなというのは感じました。

やはり慣れている、使いやすいというのは、私どもも見やすい、それは確かにあると思ったのです。私、啓林館の教科書が気になります。これは審議会の先生方も大変ページ数が多いということで、それを詳しい、説明がとても丁寧と取るのか、それとも説明し過ぎだと、しつこいと、多過ぎると取るのかというところで、ご意見がお別れになったように伺っているのです。まとめとして発展的なことを取り上げていることとか、算数を学んでいくのに基礎・基本だけではなくてもう少し先もあると。

いろいろ見ると、問題数が結構多いのです。それは内容の多さによるのだと思うのですが、練習させようとか、やらせようという意欲のある教科書なので、啓林館は東京書籍から比べると問題数も多い。家に帰ってもう一度勉強してみようではないかという時に、教科書だけでほかの問題集とか何かを使わずに済むのではないか、親の立場としては実に迷わずに有難いなというのは感じました。啓林館というのはちょっと変わっているのですが、良いのではないかと思いました。

東京書籍も良かったし啓林館も良かったなと私は思いました。

**大蔵委員** 私も安本委員が言われたように、量が多いこと自体はそんなに問題はないと思ったのですが、審議会のご報告が出た時に、審議会の報告は受けただけですから、そこで討論をしたわけではありませんけど、何か使い残すというか、全部教えきれなかった時に、教科書を全部やらなかった時、父兄から「どうして全部教えられなかったのか」と、それは先生として負担になるので、多いのは難しいのではないかという意見があったというようなことを言われていました。

私はそれはそんなに気になさることではなくて、ずうっととにかく教えていって、問題集もできるだけやったほうがいいですが、飛ばしても悪くない。多ければそういう配慮ができますが、

逆に少なかったら足りない時は必ず別のものを、サブのテキストを買ったりしなければならいのですから、そういうことからすれば私は教科時間が3割減ったから内容も減らしてやろうという、いわゆる「ゆとり教育」の考えではなくて、教えるものは教えるのだと。

杉並はほかの所に比べれば、全体としてはレベルが高い所だと思いますから、頑張っていけるのではないかと私は思います。私は数学の専門家ではありませんが、ずうっと見たかぎりでは啓林館は良いのではないかなと思っています。

**宮坂職務代理者** 私も大蔵委員に同意いたします。問題が多過ぎる、いま時間数が少なくなって先生が全部消化できないのではないかと心配をされる方もあります。これが果たして長所なのか、欠点なのかは考え方が違います。ただ、私もあえて問題をゆとりに中心を置いて少なくするという事よりも、問題数が多いということは必要ではないか。これをどの程度こなすかがある意味では先生の腕の見せどころにもなります。内容的には東京書籍もなかなか良くまとまっていると思いますし、そのほか大日本図書、教育出版なども比較的良くはまとまっているのですが、あえて私も啓林館のほうを子供に与えたほうがいいのではないかと私は思います。

あの時、先生にも伺ったのですが、1つの教室で授業をする時に、どの辺の子供を対象にするのか。当然子供には能力もありますし、勉強をする子としない子、努力をする子といたす。上の方と真ん中と下を。真ん中を対象にするのか、ビリを対象にするのか、トップを対象にするのか。これは難しい問題だと思います。ただ平等にということ観点を考えますと、トップに合わせることは不可能ですから、どうしても下のほうに合わせる。すると、上のほうが遊んでしまっていて、学力の低下を招くひとつになります。この辺非常に難しいので下を切り捨てるという意味ではありませんが、工夫はありますが、そういう意味も含めてこの問題を承知の上であえて問題数が多い啓林館がよろしいのではないかと私は思います。

**教育長** 正直、相当私は迷っています。東京書籍もなかなかバランスのいい、先生方にとっては望ましい、教えやすい教科書ではないかなという思いも、先ほどの安本委員のお話からも、私もそのような印象をもっています。

最近ある新聞で親子座談会が出ていて、「なぜ私立に行くのですか」と司会者が聞いた時に、「公立学校は落ちこぼれがないようにという視点で教育をされていて、私立は意欲のある子供には応えていこうという姿勢があって、落ちこぼれがないようにということが悪いことではないけれども、意欲のある子供たちに応えていこうという姿勢が公立には欠けるのだ」というようなことを親子座談会で、たまたま見たことがあるのです。その座談会だけではなく一般的にもよく言われるのです。

意欲のある子供にも、もちろん落ちこぼれがないように、それぞれの子供の能力に合った。特

に算数は習熟度に応じた学習が必要だと思います。意欲のある子供が杉並区にはたくさんいます。そういう子供たちに少し分量が多くて、少し問題量も多いけれども、あえてチャレンジさせるといぐらいの気概でもしいくのであれば、この時代特に基礎学力云々が言われていますから、そういう意味では啓林館というのは1つの選択肢なのかな、意欲的選択肢かなという気がしていて、多少、東京書籍に拘りつつも啓林館もそういう意味では捨て難いなと、心の中では若干の迷いもあります。他の教科書もそれぞれ魅力はあると思いますが、私は先生方のお話のとおり東京書籍と啓林館、どちらも優れた教科書だとそのような印象です。

**安本委員** 啓林館で下のほうの子を引き上げようという努力を先生にさせていただきたいという気はするのです。それだけのものを持って、いつも算数を嫌いになっては困る。私は最初でつまずいて算数をずっと嫌いだったのですが、結局はそういうことなので、最初に引き上げる努力、それはやはり先生のお力だと思うし、子供の能力を引き出すのは教科書だけでは絶対になくて、やはり先生方の努力とあと子供たちの能力を段階的に見て、そこを引き上げていってくださる。そうすると啓林館は使いようによっては、私、親の目から見るととても下の子にとっても努力の対象になるのではないかと。チャレンジ精神といいますか、そういうところが出来ていいのではないかと思います。

東京書籍は本当に満遍なく、上も下も真ん中もみんなと一緒にできる教科書みたいな感じがするので、それではやはり物足りない子が出てくる。現在、小学校では、では副教材として何を使っているかという、1分間ドリルとか、5分間ドリルとか、計算のドリルなのです。これはそれこそ5分のお休み時間でパッと宿題が済ませる程度の量しかないわけです。そうだとすれば、やはり教科書に取り組む意欲が必要だなと思います。東京書籍も分かりやすいし、すごくいいのです。全ての子供にとって良いのだと思います。啓林館は確かに難しいかもしれない、量的にも。

**大藏委員** 公立学校の復権を図りたいですね。

**安本委員** そうですね。

**教育長** それぞれで、他の教科書も別に私は悪いとは思っていません。

**安本委員** そうです、学校図書もいいのです。

**教育長** 編集、レイアウトもコメントを付けてもいいのですが、特に私は悪いとは思っていませんが、ただ、ここであえて言えば東京書籍、啓林館どちらも良いと思います。

**委員長** 東京書籍と啓林館の2社に絞られたようですので、東京書籍と啓林館でもう少しご意見をお聞かせください。

**教育長** そういう意味ではあえてこの時期に選ぼうということで、私は啓林館によって杉並の子供がポンと算数が好きになる。算数の力が伸びる。今年は全国算数大会も東京杉並でありますから



いいのではないのでしょうか。意欲的な先生が杉並区には多いですから。

**大蔵委員** ずうっと東京書籍を使ってきて、一度啓林館を使ってみたけれども現場の先生たちからやはり使いにくいというか、そういう声があって、また東京書籍に戻ったということでしたが、それから時間も経っていますし、いろいろな教科内容も変わってきていますから、もう一回トライをしていただいて、やれるのかどうか、そういう機会ではあるのではないかと思います。

**宮坂職務代理者** 東京書籍は慣れているということもありますが、私も教育長のご意見に全く賛成です。杉並区の子供のレベルが高いというお話も出ましたので、あえて杉並区の子供たちに期待して啓林館をぶつけてみようではないか、そういう感じがいたしております。

**教育長** 東京書籍と啓林館は極端な違いがあるわけではないです。特に啓林館の良いのは問題量が多いのです。私も算数はそんなに得意なほうではなかったのですが、たくさん問題をこなすことによって、基本の構図がだんだん見えてくるのですね。とにかく練習、トライアンドトライなのです。練習をとにかく繰り返すことが大事だと思いますので、私はそういう意味では啓林館の問題量が多いというのは、時にはマイナス点なのかもしれませんが、私はかえって子供にはそれを通して算数が学べると思います。

**安本委員** 学校だけでは済まないかもしれないですね。でも、ほかの教材をとということであれば、やはり家に持って帰っても残った問題を解けるということでは、私は教科書を頼りにしたいなと思います。

**教育長** 私も授業をしょっちゅう見ていますが、実際には先生方で図形的なものなども含めて、いろいろ工夫されています。いろいろな副教材も使ったり、先生自らがお作りになって、かなり工夫していますね。ですからそういったことも組み合わせながら啓林館を上手に使っていけると思います。最近の算数の授業もそうですが、数学の授業がだいぶ様変わりして、先生方の工夫がすごいです。感心します。

**委員長** 両書とも基礎・基本というか、そういった説明などは十分なされていて、それこそ甲乙付け難いと思いますが、いまいろいろ委員の皆様方が言われましたような問題数、それを頑張ってもらって力を付けてもらおうというようなこと。若干問題数は東京書籍が少ないようですが、啓林館に絞らせていただいてよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 次に理科です。お願いいたします。

**教育長** これは全部で6社ですか、東京書籍はほかの教科もそうなのですが、全般的に非常に良く構成ができている教科書だなということは思います。ただ、審議会報告を見ますと、頁の構成が分かりにくいとか、一部説明不足で使いにくいところがあるとか、デザインが若干派手ではない

かというようなことで、私も全体を見させていただきましたが、そこまで分かりにくいとは思わなかったのですが、教える上ではどうなのかなという報告を書いたということは、教える上ではちょっと使いにくさがあるのかなと。全体的には良く出来ている教科書だとは私は思っております。

大日本図書は現在使っている教科書です。内容的には私は堅い印象を受けています。ある意味では面白味に欠けるといえるか、やたら指示的な面が多いといえますが、そのようなこともあります。例えばこの中で植物・動物を育てる場面、例えばオクラやニガウリの教材というのがありますが、杉並でオクラやニガウリの教材を身近に観察することが可能だろうか。あるいはモンシロチョウの教材のことも書いてありますが、これも東京の杉並区という場所で大日本図書に書かれているような観察が果たしてできるのかなという意味で、植物によっては、あるいは動物もそうですが、その辺の文章に書かれていることと実態が合っているのかなという疑問が、大日本図書にはあります。たしか選定審議会の報告書の中にも先生方が書かれた、そのようなものがあるように記憶をしています。

学校図書は子供たちの活動に則したまとめが少なく、どちらかといえば説明をしっ放しで、興味とか関心を引き付けにくいのではないかなという気がします。

信濃教育会は材料がありませんので評価の対象外だと思います。

教育出版につきましては、大変資料も豊富で親しみやすい印象があります。差し絵とか、写真も大変美しい。ほかの図書も写真とか絵には工夫がありますが、特に教育出版については鮮明だなという印象を受けています。

啓林館ですが、これは全体的に言えるのですが、図と文章がなんとなく読みにくい。見やすくはないといえますが、見にくいということと、子供たちの興味や関心を高める工夫に若干欠けるのかなと。キャラクターも出てきて、工夫はしているのですが、宇宙人みたいなキャラクターで、実際の場面としっかりこないなという印象を受けています。そういう意味では教育出版が全体的によくまとまっている教科書ではないかなと、そのような印象を受けています。

**宮坂職務代理者** 私も啓林館は数学ではかなり推奨したのですが、理科になると見づらい分りにくい、キャラクターに漫画などを使われて、話し言葉にちょっと異和感を感じる部分もあります。全体的に見ますと教育出版がいちばん、実験・観察など身近なものを使っていてやりやすいというか、使いやすい教科書ではないかという感じがします。現在使われている大日本図書もそれなりにまとまっているのですが、教育長も言われましたが、モンシロチョウとか、教材としては使いにくいものも入っています。いかがなものかなという感じがちょっとします。

現行の大日本図書では、教科書に書き込みができ、あとで振り返るのに非常に良い、これは長所

として審議会から報告があるのですが、私、古いせいなのかどうか、教科書にどんどん書き込み、汚していくというのが、現在そうだから、我々が頭を切り換えなければいけないのかもしれないのですが、私なども子供のころはあまり教科書を汚さないように、教科書の場合によっては次の世代に渡すという習慣がありましたから、これが果たして長所と言えるのかどうかは疑問に感じますが、いまはそういう時代なのかかもしれません。これはむしろ私の頭の切り換えをしていかなければいけないかなという感じがします。

それはともかくとして使いにくいという意味で大日本図書は、現在使われているのですが、どうかという感じがしました。結論的には教育出版が無難だなという感じを私も持っています。

**教育長** 大日本図書は現在使われているので、審議会報告の中にも、それがベストかベストでないかは別にして、積極的に書いてあるのかなということで、丁寧に私、読ませてもらいましたが、「面白みに欠ける」という表現もありますし、栽培の難しい植物も現実に入っているということも入っていました。それから、やたら指示的な面が多くて面白みに欠けて、ちょっと堅いなというようなことも書かれていました。現在使ってはいるのだけれども、そういう意味ではどうなのかなと、今度の新しい教育過程に沿った教科書としてはどうなのかなという疑問があったのかなと、そういう意味では、教育出版のほうに審議会のほうも積極的な評価をされているのではないかと、私はそういう印象を受けました。

**大蔵委員** 審議会の報告は全般として、いままで使い慣れたものに対して点数が付きやすいところがあるのです。その中で今回審議会が必ずしも大日本図書に拘らないと言われたのは、かなりの考え方がそこにあるのではないのでしょうか。

**安本委員** 大日本図書のオクラ、ニガウリ、モンシロチョウ、この3点セットがどうしてもやりづらいと、オクラに関してはどこの学校も夏野菜なのでいま作っているのですが、うまくいかないのだそうです。ニガウリというのは教科書を見るとツルレイシというらしいのですが、聞いただけでは私にもわかには分からなかったような感じで、そういう意味で使いづらいということ、あと字が大日本図書は小さいみたいです。

東京書籍もそのようで、並べて見ると読みやすかった教科書というのは、まとまっていたのが教育出版。たぶん自分がどうやって問題解決をするかということ、理科に関しては大事にしたいと審議会の先生は言われたのですが、これにはたぶん自分で考える力を持って、問題解決ができる、これは良い教科書なのではないかというお話も伺いました。

この教科書自体大豆インクと再生紙で出来ているのです。すごく環境に配慮している。例えばバスのエンジンをストップさせなければいけないこととかが教科書の中で自然に出てきて、環境教育にもすごく配慮をしているので、私もそういう意味でも教育出版の本はなかなか良いのでは

ないかと思えます。写真もすごく色が自然で、急にすごく緑が濃かったりとかいう所があまりなかったもので、私はこの本に関してはとても好意的に読ませていただきました。

**委員長** 16年大日本図書を使用されていて、いまもいろいろな審議会の報告書を見ました。今後の教育の進め方にも関係しますし、自由研究の頁が全体の中でいちばん教育出版が多いようですし、その辺も活用していただいて、皆様方のご意見どおり教育出版でいかがでしょうか。

(異議なし)

**委員長** ありがとうございました。次に生活に移らせていただきます。

**安本委員** 生活科という科目は何年か前から出てきた、1、2年生、低学年の科目です。社会的な理科と、理科的な社会という、かね合いがすごく濃いと思うのです。ですからどちらの勉強もバランス良く配分されて、理科的な考えから社会科的なものにいくとか、そういうことが今後高学年になると、今度総合的な学習に繋がっていくと思うのです。

私いちばん印象に残りました教科書が大日本図書なのです。審議会からいただいたご報告でも、イラストとか、性別による服装の色とか、役割が男の人ならこう、女の人ならこうとか、そういうのをあまり固定的に書かれていないのです。これは低学年ではまだ分からないかもしれないが、もっと大きくなってくるとだんだん総合的な学習とのかね合いで分かってくる。なかなかフラットに書かれている本で、私は大日本図書に関してはやはり印象に残りました。資料とか写真がとても見やすく、分かりやすいというのも私の気に入った理由の1つです。

**教育長** さっとおさらいしますと、東京書籍は特に欠点というわけではないのですが、これは低学年ですから、まさに生活そのものをいろいろな形で、ごく自然に日常生活の中から学ばせようという工夫です。東京図書がやや親しみに欠けるかなという印象を受けました。大阪書籍はやはり近畿地方の素材が多いなという印象です。大日本図書は春夏秋冬に分けながら上手に資料・写真も構成していますし、学習の見通しも立てやすい教科書ではないかと思えます。学校図書につきましても、これジャンル別に編集はされているのですが、年間計画と時期に少し食い違いがあるようなことも、審議会の中で言われています。

教育出版についても、全体的にはまとまっているようですが、杉並区ではちょっと見かけないような植物もあって、指導をする際に先生の相当の工夫が必要だと。そもそも先生の工夫が必要なのですが、ちょっと違和感があるようだという報告を受けています。

光村図書、これも欠点かどうかは微妙なのですが、分量的には少し多め。生活科ですから分量的に多くていいのかどうか、この辺判断に苦しむのですが、審議会では分量が少し多いという印象を受けているようです。啓林館は写真・絵・イラストがちょっと詰め込み過ぎで、全体になんとなくうるさいといえますか、詰め込み過ぎだなという印象を受けました。

一ツ橋出版は教科書のタイトルが、これ1、2年が対象ですが、2つに分かれています。1冊目が「どうしてそうなの」、2冊目が「本当はどうなの」という見出しといいますか、教科書そのものがそういうタイトルになっているのです。その辺はいいなと思ったのですが、内容が国語か物語かなという印象を受けていて、興味を持たせる写真などにも貧しいなという印象です。

日本文教出版については、とにかくこれも資料が盛りだくさんで、1、2年生の子供たちに、ごく自然に生活体験をさせる、いろいろなものに興味を持たせる、という意味ではちょっと難しい教科書なのかなという印象を受けました。そういう意味では大日本図書が素直に私は受け入れられました。

**大蔵委員** 10点というのは非常に多いですね、ほかの所は多くて8つですか。理科と生活は同じ会社の教科書でなければならない、ということではありませんね。

**安本委員** それはあまりリンクしないというふうに伺いました。

**大蔵委員** 前はたまたまどちらも大日本図書だったということだけですね。

**安本委員** そうです。生活科というのが社会と理科とミックスしたような科目ということだからだと思うのです。使い方によっては社会科的にもできるし、教科書に沿って全てやっているわけではどうもなさそうですね。総合的な学習に向けてこれをとってこういうふうにしていこうとか、そういうところが授業でも見られるので、理科と同じ教科書でなければならないということはありません。ただ理科的な要素がやりやすいのでしょうね。だからそういうのが多いようには聞いています。

**教育長** 幼稚園や保育園からだんだん学校に馴染んでいく、そのプロセスを上手に自然の中、自然に馴染ませていくような教科内容になっていますので、なかなか良く出来ているなと思いました。大日本図書は私は素敵だと思います。

**安本委員** 東京書籍も結構良かったのです。見やすいいい教科書だったと思います。

**教育長** 面白いもので比較すると私は、親しみという点では大日本のほうが親しみがある。子供でもそうではないかなと思わせる、そのような編集でした。

**安本委員** ですから生活科に留まらずに、その先の総合的学習、いまものすごくどこでもしているのですが、それが来年度からもっとなってきますから、そうすると、そこに結び付いていくには、やはり大日本図書みたいな分かりやすい構成の本が良いのかな、という気はいたします。

**委員長** 大体ご意見を頂戴したのですが、大日本という声が大きいと思います。生活のほうはいまもお話がありましたように、適量というか、教えるあるいは学ぶその量というか、キャパシティというのがある程度あるのだなというふうに。今回10社あるわけですが、ちょっと多過ぎるのが多くて教えずらいのではないかと、ということも結論的には言えるのではないかと思います。大日

本に大体傾いているようです。

私はこの中身を見ていて気がついたことだけ、蛇足なのですが、まちづくりとか、公園づくりとかいろいろやっているのですが、出てくるいろいろな研究授業に行っても結構公園を使ったりしているのですね。この中の教科書でも「公園を掃除している人に聞く」ということになっています。そうではなくて、東京都内は案外少ないから、そういう傾向なのかなと思うのですが、横浜、川崎、大阪だとか、「公園愛護会」というのがあって、子供たちも一緒になって掃除する。それをただ「掃除している人に聞く」というふうな教え方になっていて、題材としてどうなのか。そういったことはほかにもあるのかもかもしれませんが。

**安本委員** それは大日本図書ですか。

**委員長** ほとんどそうです。みんな右に習えになっています。せっかく参加型とか、体験学習とかがテーマになって出てきているのだから、そういうことも含めて教科書というのは作ってもらいたいなと私は思ったのです。全般的に惜しいなということです。ですから知識として公園を使うということ以外のことが、生活科で大事なことはないかなと私は思うのです。教える時にそのようなことを含めて教えていただければと思います。大日本図書でよろしいですね。

(異議なし)

**委員長** 次に音楽にまいります。

**教育長** 審議会報告を読みますと、東京書籍が音楽に関してもよくまとまってバランスの良い構成になっているというご報告をいただいています。曲数も大変多くて発展的な使用も可能だというような報告です。そういう意味では比較的欠点の少ない優れた教科書ではないかなという印象を、私も中身も拝見しましたが優れた教科書ではないかなと思います。

教育出版ですが、音楽の教科書のわりには文章が全体的に多いのかなと。ただ、全校合唱とか、手話とかいった面では優れた面も持っているのですが、全体的に文章の多い音楽の教科書かなという気がいたします。

教育芸術社については、まさに教育芸術社ですから、かなり音楽にも力を入れている教科書会社だと私も思いますけれども、副教材とか補助教材が少ないということで、それがまた別に必要になる。基本的な演奏の奏法の説明が少ないということも指摘がありますので、若干そういう意味では補助教材が少ないなどの難点があるのかなという意味では、審議会報告にもありますが、東京書籍が全体的にはまとまりが良いのかなという印象を受けました。

**大藏委員** これはなかなか難しく、音楽とその次の図工は、両方自分でやる、歌ったり演奏したり、絵を描いたり、ものを作ったりすること。それから観賞するほうと両面があるわけです。そのバランスがどういうふうになるかというのは、なかなか難しいですね。

**教育長** 音楽の教科書も我々の子供のころと様変わりで。

**大蔵委員** 全然違いますね。

**教育長** いろいろな新鮮な曲がたくさん入っていて驚かされました。まさに現代歌っているポピュラーといえますかフォークといえますか、そういった曲もありますし、もちろん古典もありますし、なかなか多彩でございました。

**宮坂職務代理者** どういう曲目を取り上げるかというのが、バランスの問題だろうと思うのです。そういう意味では東京書籍がいちばんまとまっているというかヒアリングでは、「蛍の光」「仰げば尊し」も入っているような話もありましたので、古いもの、新しいものも入っています。そういった意味ではバランス的には東京書籍かなという感じがいたします。

**委員長** 大体、東京書籍という声が大きいのですが。

**宮坂職務代理者** 教育出版は童歌とかいろいろなを取り上げてはいるのですが、ただ、ちょっと理屈といえますか、知識とかそういうものに偏っているというような印象を受けているのです。東京書籍が取り組みやすいのではないかなという感じがします。

**大蔵委員** オペラなどだったら学校で教えるということも、あまりないのではないかという気がします。

**委員長** 私はいろいろなレポートを見ていて、教師の方が東京書籍について、この本で教えてみたいというか、そのようなことを書かれてあって、いまからワクワクしていますと書いてあって、それにすごく惹かれています。芸術系の先生ですから素直にそういったことも書いてくださったのだと思います。やはり教師は教科書というのは使いこなすのがいちばんでして、そういった側面は大事だと思います。東京書籍でよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 次は図画・工作に移ります。よろしく願いいたします。

**安本委員** 東京書籍ですが、先ほど申し上げたようによく教科書を研究している。何々してみようというその動機付けがどの科目にも出てくるのです。これもやはりそれで「工夫してみよう」とか、「作ってみよう」「試してみよう」という考え方でずっときているようなのですが、ほかのと比べると写真とか、作品の数が少ないように思いました。開隆堂出版にも「びっくり美術館」という内容のものがあって、これ自体はなかなか面白いのですが、先生方がどういうふうにお考えになるか。子供にとっては良いかもしれないけれども、教科書で教える側にとってどうかという気がしました。

日本文教出版に関しては、監修として「教科書美術館」というのがありまして、これがすごく子供にとっても良いのではないかなと思いました。現行も日本文教出版を使っているようですが、

先生方の選定審議会からもこれがなかなか良いというお話もいただいていますので、私は図画・工作に関しては日本文教出版の、現行の教科書がよろしいのではないかなと思いました。

**教育長** 東京書籍は「チャレンジひろば」などで、なかなか子供たちに意欲を持たせる工夫はあると思いますが、美術作品の事例が少し少ない、鑑賞についてのコーナーもないかなと、ややそういう教科書かなと思いました。開隆堂は逆に抽象的な立体像などもあって、なかなか素敵だなと思いました。大人好みかなという気がしています。大人好みも良いのですが、もっと大事な、例えばいろいろな工具類の使い方、当然図画・工作ですから工作をやるわけですが、工具類の使用についての安全面の説明がないと。いまはなにしろナイフの使い方がよく分からない。悪いほうで使い方を知っていても図画・工作のほうの使い方を知らないで指を切ってしまうというのが現実に結構ありますから、そういう意味で、もう少し安全面の配慮が欲しいという気がします。

そういう意味では日本文教出版は全体的にそういう配慮もありますし、いま言われたように「教科書美術館」もありますし、「ねぶた祭り」も。「ねぶた祭り」が載っていなければならないということはないのですが、そういう地方のお祭りを、杉並の「阿波踊り」や、「七夕」も連想させるような要素も関連づけて教材として使えるようですから、そういう意味では地域性もあって、いろいろな作品例もたくさん載っています。これは教科書選定審議会からも、どちらかといえば評価の高い教科書だったのかなという印象を受けています。

**宮坂職務代理者** 審議会の評価でもこの3社ではいちばん日本文教出版が高いようですし、教育長が言われたようにバランス的にも取れているし、いちばん無難という表現はまずいのかもかもしれませんが、現在使われてる、使いやすいという点でもよろしいのではないかなと思います。

**委員長** 3社ですので案外はっきりと比較できるわけですが、よくパブリックアートというか、暮らしの中の芸術とか、いろいろな作品だとか最近言われるようになってきて、小さいときからそういう感覚というのを磨くことは大事なのですが、3番の文教出版が取り扱われている作品はダントツに多いのです。もちろん美術作品もいちばん多いのです。プロジェクトの作品例も多くて、そういった意味で使いこなせば面白いかなと私も思います。日本文教出版のものでおかたのご意見はよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 次に家庭です。5、6年を通して1冊です。

**教育長** これは5、6年生の家庭で2社ですね。開隆堂はちょっと読みにくい、説明もやたら多くて、子供たちが見たら読みにくいのではないかな、親しみを感ぜないのではないかと。それよりも東京書籍のほうが見やすいし、例えば裏の表紙の中側の所ですが、栄養素の食品分類表などが出ていて、これはお父さんお母さんも、子供と一緒に勉強をして、こんなのを食べたらこういう



栄養価があるよとか、最近お父さんお母さんも生活習慣病の気がなくもないですから、子供と一緒に学習をするにも楽しいなという印象さえ受けました。

東京書籍がそういう意味では、なかなか良く出来ていて、家庭における日常生活のなかでこの教科書を材料に家族団らんの時に「お父さん、こんなの知っているかい」とか、「お母さん、知っているかい」って、それにも使えるぐらいに、日常生活によく密着したバランスの取れた教科書で、私は東京書籍は良く出来た教科書だなと、そのような印象を受けています。

**安本委員** 小学校ではご飯を炊いたり、お味噌汁を作るという程度のことでするらしいのですが、東京書籍の場合はそれを6年の最後でみんなできてください、みんなで振る舞いましょうという所まで出てきているのです。開隆堂出版は5年生の稲作の所でもうご飯が出てきてやってしまう。どちらが良いかと思うと、卒業の時にみんなで作って食べるというほうが私はいいかないという感じはしました。開隆堂出版は絵はとてもカラフルできれいでしたし、写真も良かったのです。どちらかというと東京書籍は寂しい感じでしたが、丁寧な作りというか、わりあいそのような感じで、私は東京書籍のほうが好感が持てました。

**教育長** 東京書籍は選定審議会からも、つまり先生方からも比較的評価は高いようです。

**安本委員** 順番が整理をされていて、課題が出されて、やってみて、どうか、という順番がうまく表わされていると先生が言われていました。自分で考えて実行するというサイクルがちゃんと守られて作られた教科書です。

**教育長** 大事なことですね。

**委員長** 選定審議会の評価もいちばん高い評価をいただいて、委員の先生方の評価も高いので、東京書籍でいかがですか。よろしいですか。

(異議なし)

**委員長** ありがとうございます。最後に保健に入ります。

**教育長** 6社ありますが全体的に良く出来ていると思いました。私の子供のころには想像がつかないような男女の体の成長の具合なども上手に嫌味なく。昔、私らはあんなことを教わったかなと思うぐらい、体の、乳房とか陰部とかいうものも上手に表現をして教えていますし、タバコ、お酒、シンナー、覚せい剤とか、そういった害についても上手に説明を。これは各社、多少編集の差違はありますが、それぞれが良く出来ている教科書だなという印象は受けました。そういう意味では東京書籍なども特に難点がないというか、よくまとまっているなという印象は受けました。

そういう意味では、なかなか甲乙付け難い印象を受けているのですが、あえて言えば学習研究社がその中では、特に障害者の福祉とかいったことにも配慮を加えている。キャラクターはどこかの教科書も使っているのですが、キャラクターの言葉なども、どちらかといえば簡潔です。

これは保健ですが、教え方が難しい。思春期の子供たちの始まりぐらいですか、3、4年生、5、6年生と順番に教えていくわけですが、5、6年生辺りですと、性教育的なことも含めて教えるわけですから、大変教え方が難しい部分でもあると思いますが、それを明るい構成で全体を作っているのが学習研究社ではなかったかなと。ほかにも良く出来ているので悪いということではないのですが、学習研究社が私は大変優れているなという印象を受けました。

あと気になったのは文教社がヘルメット着用で自転車に乗っているのですが、東京はちょっと違うかなと。私ら地方都市に出張とか旅行に行きますと、あぜ道というか土手をヘルメットをかぶった自転車の男の子の子女の子が走って、なかなか美しい光景ではあるのですが、文教社のあれはちょっと違うのかなと、そのような場面は杉並区とはちょっと違うのかなという印象を受けました。

みなさんそれぞれ頑張った良い教科書だと思いつつも、学習研究社を私は支持したい。一口で言えば、非常に全体的に明るい編集、構成ではなかったかなと思います。

**安本委員** ヘルメットはかぶったほうがいいのです。うちは小学生のころは危なかったからかぶせていました。

**教育長** うちは自転車通学そのものが。それがあつてでしょう。文教社を見ると、ヘルメットをかぶれば自転車通学をしていいのということにもなるのかなと。

**安本委員** そうですね。地方都市ではそういうことがありますよね。

**大蔵委員** アメリカは自転車に乗る時はヘルメットは必ずかぶらなければいけない。

**安本委員** でも自転車通学はいけないのですね。

**教育長** 自転車通学はいまOKを出していないです。

**安本委員** どの教科書もおっしゃるとおり良かったのですが、保健はすごく微妙な科目だと思うのです。特に公立の場合は男女両方同じ教室にいますから、どちらも揶揄したりとか、笑ったりとかいうことのないように教えられるということと、性に関しても絶対に自分の悩んでいることとかがそこであるかもしれないわけで、その時にそれが明るく出せる内容でなければいけないと思うのです。そういう点で言うと、自分のかかわりとか、自分を中心に考えた時には、やはり明るく勉強ができる、明るく知ることができる。笑いながらなんとなくというほうが、性的なものに関して導入をする場合に、5、6年生の場合には良いと思います。学研に関しては校医の先生のお話からいろいろ、「こういうことがあるのだよ」みたいな感じで言われていて、とても明るい感じがして、私は教科書としては、学研で勉強ができれば妙な暗い嫌な思いとかがなくて済むのではないかと思いました。

**宮坂職務代理者** 選定審議会の報告を見ますと、東京書籍と学習研究社がいちばん評価が高いよう

ですが、安本委員が言われましたように明るく編集されている、明るいというのが非常に。特に障害者などの取り扱いで、写真も明るく載せているということが障害者の励みにもなりますし、そういう面では福祉にも力を入れているということで、やはり学習研究社が若干上かなという感じが私はいたします。

**委員長** 大体ご意見をいただいて、学習研究社でよろしいですか。かなり自分の生活に結びついた、密着した題材を中心に掲げています。安本委員が言われたように明るいということがかなり基本的な話かなと思います。学習にもそういった意味で適しているかなと思います。学習研究社ということで大方のご意見をいただきました。ありがとうございました。

これで小学校の教科書の採択の審議を終わらせていただきます。ここで確認するために一旦休憩に入らせていただきまして、後ほど再開したいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

(休憩)

**委員長** 教育委員会を再開いたします。休憩前の審議を踏まえまして、小学校教科用図書の採択本一覧が作成されましたので、ご確認ください。指導室長をお願いします。

**指導室長** 小学校採択教科書、委員長の命により室長が発表いたします。科目、発行社を言います。

国語 光村図書、書写 光村図書、社会 東京書籍、地図 帝国書院、算数 啓林館、理科 教育出版、生活 大日本図書、音楽 東京書籍、図画・工作 日本文教出版、家庭 東京書籍、保健 学習研究社、以上でございます。

**委員長** ありがとうございました。以上のとおり決定いたしたいと思いますがよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** ありがとうございます。異議なしと認めまして、決定いたします。

次に養護学校・心身障害学級用の教科書採択に移ります。養護学校・心身障害学級での採択は検定教科書、本(ほしぼん)と呼ばれる文部科学省著作教科書、学校教育法 107 条の規定する図書、いわゆる 107 条本からの選択が可能となっています。各学校からの申請では 107 条本からの選択が多数でした。教科用図書検討委員会から答申がありましたが、このとおりでよろしいかどうか伺います。どなたかご意見はありますか。

**教育長** これにつきましては、いわゆる 107 条本ですので、子供一人ひとりの障害に応じて、それぞれ担当の先生方が適切にお選びになっておられる、というふうに私は思っています。そういう意味ではこの教科用図書検討委員会からの答申どおり認めてよろしいかと私は思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**委員長** それでは採択したいと思いますよろしいですか。

(異議なし)

**委員長** 異議なしと認めまして、採択いたします。本日の委員会はこれで閉会にさせていただきます。なお明日は午前 10 時から第 13 回定例会として開催いたします。本日はどうもご苦労さまでした。どうもありがとうございました。